

1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

《人間社会学域》

【人文学類】

人文学類では、広範な人間の行動・思考・創造と、その蓄積としての思想・歴史・文化、あるいはそれらすべてに関わる言語等を学問的に取り扱い、これら諸学問の専門知識を有し、総合的・学際的視野を持った人材の養成を目指します。

例えば、情報処理能力と柔軟な思考力をもって組織をリードできる人、社会調査・フィールドワークを企画・実施する能力を有する人、外国語コミュニケーション能力を有し国際的に活動できる人など、学術上の基礎訓練を活かし活躍できる人材の養成を目標とします。

なお、一般入試、帰国子女入試、国際バカロレア入試、私費外国人留学生入試で入学した人は、2年進級時に、本人の希望、学業成績等を考慮の上、所属するコース・分野を決定します。

求める人材

- ・人間の行動や思想に積極的な関心を持ち、人間探求に挑もうとする人
- ・社会や文化に関する課題を発見し探求する能力を高めた人
- ・個性的な発想や観察眼・思考方法の能力を伸ばしたい人
- ・フィールドワークに興味を持ち、調査方法・情報整理能力を身につけたい人
- ・外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力を高めた人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程では人文学類の基本的科目である国語・外国語能力、後期日程では小論文課題の理解力・論理的思考力・表現力等を重視します。

■推薦入試

【人間科学コース（専門分野：哲学・人間学）】

- ・小論文においては、哲学的・倫理的な問題についての理解力、論理的思考力、表現力を重視します。
- ・面接においては、幅広い教養とともに、哲学的なものの考え方や発想に対する関心を重視します。

【歴史文化学コース（専門分野：日本史学）】

筆記試験では、日本の古代史から近現代史に関する一般的な知識を論理的思考力でもって表現できるかを問う、面接試験では、研究手法を身につけるための意欲と関心を有しているかという観点から選抜します。

【歴史文化学コース（専門分野：東洋史学）】

本学入学後に、東アジア文化圏（漢字文化圏）における諸事象を総合的・多面的に理解し、そのうえで、歴史資料を駆使しながらその歴史を論理的に描くことができるかどうかをみるため、小論文では、課題に関連する文

章や資料、並びにアジアを中心とした世界の歴史についての理解力・論理的思考力・表現力等（それらの前提となる基礎知識を含む）を、また面接では、平素の学習活動の成果、勉学意欲や当該専門分野で学習を進めるのに必要な資質等を、総合的に評価します。

【歴史文化学コース（専門分野：西洋史学）】

課題に対する理解力・論理的思考力・表現力等を評価するとともに、面接により、歴史を研究することへの情熱、および特定の時代・テーマに関して今後深く掘り下げて考察しうる可能性を有しているかという観点から選抜します。

【言語文化学コース（専門分野：中国語学中国文学）】

小論文を通じて、外国語読解力、思考力、表現力、創造性及び言葉に対する感性を測ります。また面接では、入学後の学習意欲とともに、中国の言葉、文学、歴史及び現代中国の文化と社会に対する知識、関心度なども重視します。

■帰国子女入試

人文学類の基本的科目である国語・外国語能力を重視するとともに、面接により、高校時代の日本内外における体験、大学入学後の計画、大学の授業を理解するための基礎知識を評価します。

■私費外国人留学生入試

日本語の読解・筆記能力を重視するとともに、英語能力も確認します。また面接により、大学入学後の計画、大学の授業を理解するための基礎知識、日本語によるコミュニケーション能力などを評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

人文学類で学び、探求する事柄は、人間に関する様々な事象が対象となりますので、高等学校等で学ぶ教科全般について基礎的な知識と理解力・思考力を身につけておくことが望まれます。

【法学類】

法学類は本学独自の「学類」という名称を冠していますが、学べる内容は他大学の法学部と同じです。起源は1949年に創設された法文学部法学科であり、1980年には法学部へ改組し、2008年には現在の法学類となりました。この間、国内外の社会状況は大きく変化し、また、今後も常に変化しつづけることが予想される中で、個々人が他者と共生していくために必要である法と政治に関する基本的な理念や知識は昔も今も不変であり、そして将来も不変でありつづけることでしょう。このような認識の下、法学類では、法学・政治学を体系的に学ぶことを基本としつつ、さらに、現代社会の課題を発見し解決するためには欠かすことのできない、他者に対する共感力と、問題解決のための創造力を養うことを目標としています。

法学類生の主要な進路は官公署・企業・大学院です。そのため、法学類では、希望進路に対応する、公共法政策・企業関係法・総合法学という3つのコースを設けています。各コースへの所属は3年進級時に決定します。その際、総合法学コースを志望するためには、2年前期までの成績が一定基準以上であることを条件とし、さらに志望者多数の場合は面接等に基づく選考を行います。他の2コースは希望通りの所属となります。

求める人材（法学類共通）

- ・大学での法学・政治学の学習に必要な基礎的知識を備えている人
- ・国内外の社会問題に関心を持ち、よりよい社会の実現のために貢献したいと願っている人
- ・論理的思考や情報分析を通じて、また、過去の歴史的経緯をふまえつつ、社会現象の本質を探究したいという意欲のある人

求める人材（推薦入試）

- ・コミュニケーション能力（とくに、人の話を正確に理解し、自分の意見を論理的に述べる能力）が優れている人
- ・課題や仕事に率先して取り組む意欲や責任感のある人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程では外国語と国語あるいは数学の能力、後期日程では小論文課題の理解力・分析力・表現力等を重視します。

■推薦入試

基礎学力に加え、面接を通じて、日頃から社会問題に対する関心を有しているか、大学での法学・政治学の学習に必要な基礎的知識を備えているか、他者の考えを正確に理解し自分の意見を論理的に述べるコミュニケーション能力があるか、自主的・主体的に課題に取り組む意欲はあるかなどを総合的に評価します。

■帰国子女入試

国語能力に加え、面接を通じて、大学での法学・政治学の学習に必要な基礎的知識を備えているか、他者の考えを理解し自分の意見を論理的に表現する能力はあるか、日頃から社会問題に対する関心を有しているか、などを総合的に評価します。

■私費外国人留学生入試

日本語能力及び英語能力に加え、日本語による面接を通じて、大学での法学・政治学の学習に必要な基礎的知識を備えているか、他者の考えを理解し自分の意見を論理的に表現する能力はあるか、日頃から社会問題に対する関心を有しているか、などを総合的に評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

- ・高等学校で履修した様々な科目の内容について理解していること
- ・法律や裁判例の読解、政治的問題の把握、これらに基づく私見の提示・論述に必要な国語力を十分に修得していること
- ・社会的・国際的諸問題の本質を探究し、その解決を図るために必要な社会科目や外国語科目の学力を十分に修得

していること

【経済学類】

経済学類では、現代社会において国、国の中の地域、国を越えた各地域で起きている様々な問題に、①経済理論に基づく解釈と政策的解決策の検討、②経営・会計・情報の観点からの企業活動の分析、③世界各地の経済と社会の比較考察という三つの経済学的アプローチから迫ります。そのためには経済学を体系だてて学ぶことと同時に、その一部を深く専門的に学ぶことが必要であり、経済学類は、そのどちらも満たすカリキュラムを提供することによって、現代の様々な問題に的確かつ迅速に対処することができる専門的知識を持った人材の養成を目標とします。

経済学類では、多様な社会的課題に対応できる人材の育成を目指し、一般入試に加えて高校の専門教育を主とする学科又はそれと同等な総合学科からの進学希望者を対象とする推薦入試を設けています。経済分野に対する興味・関心と、勉学に対する強い意欲を持ち、基礎的資質に優れた人材を求めます。

経済学類には、経済理論・経済政策コース、経営・情報コース、比較社会経済コースがあります。各コースへの所属は、3年進級時に本人の希望、適性、成績等を考慮の上決定します。

求める人材（経済学類共通）

- ・経済理論を基礎としながら、現代社会の諸問題の分析と解決に挑みたい人
- ・国や地域社会の仕事に携わるために必要な専門的知識を身に付けたい人
- ・即戦力として、あるいは起業家として、ビジネス界で活躍したいと考えている人
- ・日々の国際的な出来事や企業の動きに鋭敏にアンテナを張り巡らせている人

求める人材（推薦入試）

- ・高等学校で修得した専門教育の知識を踏まえ、より深い経済学・経営学の専門的知識を得たい人
- ・経済学・経営学に関する体系的知識を学び、問題解決能力を身につけたい人
- ・国際社会やビジネスに関心を持ち、将来、これらのフィールドで活躍したい人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程では国語・外国語・数学の能力、後期日程では小論文課題の理解力・表現力等と英語力を重視します。

■推薦入試

現代の文化・社会・経済に関する日本語及び英語の文章を理解する能力、論理的思考力、表現力に加え、平素の学習活動や大学入学後の計画等を重視します。

■帰国子女入試

現代の文化・社会・経済に関する日本語及び英語の文章を理解する能力、論理的思考力、表現力に加え、高校時代における体験や大学入学後の計画等を重視します。

■私費外国人留学生入試

日本語の文章に関する理解力、論理的思考力、表現力に加え、大学入学後の計画、大学の授業を理解するための基礎的知識等を重視します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

地域においても、国際的な分野においても、人間社会で活躍するためには、国語・英語および情報処理の基本的な力は不可欠です。また経済学類では、特に数学の知識を前提にした授業を履修することも求められます。さらに現代社会の経済およびそこの日本の位置づけを理解するためには、その前提として地理歴史・公民の知識が必要となります。現代の環境や技術革新の問題を学ぶためには、これと密接に結びついた科学技術の知識が必要であり、理科を学んでおくことも望まれます。

【学校教育学類】

「空洞化」した学びを立て直していくには、教師に教科等に関する専門的な知識や技能及びそれらを教授する能力に加え、グローバルな視野に立って考え行動する市民的教養と行動力が求められます。また、様々なトラブルをかかえた子どもたちと向き合うためには、子どもたちに共感し、子どもたちの世界を読み開く能力も求められます。学校教育学類は、こうした力量を持った義務教育段階の諸学校の教師を組織的、計画的に養成することを主たる目標にしており、専門職としての教師への熱意にあふれた人材を求めます。

学校教育学類には、教育科学コースと教科教育学コースのもと、教育基礎、特別支援教育、国語教育、社会科教育、数学教育、理科教育、音楽教育、美術教育、保健体育、家政教育、英語教育の11の専修があります。各専修への所属は2年進級時に、本人の希望、適性等を総合的に考慮したうえで決定します。

求める人材

- ・専門職としての教師への熱意が旺盛である人
- ・社会、自然、人間、文化、教育について深い関心を持っている人
- ・自分の見解を表明できると同時に、他者の見解や感情を理解することができる人
- ・人類的課題に地域や学校で取り組んでみたい人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、英語、そして国語・数学・理科から1教科を課して学力を多角的に評価します。

■推薦入試

【特別支援教育専修】

課題に対する思考能力と論述能力、勉学意欲や資質等を総合的に評価します。

【美術教育専修】

形体に対する表現力、課題に対する思考能力と論述能力、基礎知識・論理的思考能力及び勉学意欲や資質並びに提出作品等から総合的に評価します。

【国語教育専修】

基礎学力及び勉学意欲・教職への意欲・資質・適性等を総合的に評価します。

【社会科教育専修】

基礎学力及び思考力・文章力・表現力を総合的に評価します。

【数学教育専修】

基礎学力及び勉学意欲や資質等を総合的に評価します。

【理科教育専修】

基礎学力及び教員になりたいという目的と意欲、自然科学・理科教育・環境教育への関心をはじめとする総合的な学力等を評価します。

【音楽教育専修】

基礎学力及び演奏技術、表現力、ソルフェージュ能力、楽典の基礎的知識、志望動機、教職及び音楽に対する熱意と抱負等を評価します。

【保健体育専修】

基礎学力及び高校時代のスポーツ活動実績、教育や体育・スポーツに関わる勉学意欲と資質、大学入学後の計画等を総合的に評価します。

【家政教育専修】

基礎学力及び家政教育に対する勉学意欲や資質等を総合的に評価します。

【英語教育専修】

基礎学力及び論理的思考と英語力、勉学及び教員になることへの意欲、そしてコミュニケーション力を総合的に評価します。

■私費外国人留学生入試

基礎学力及び本学類としての適格性を評価します。(なお、本学類は日本における義務教育段階の諸学校の教師を養成することを主たる目的としています。)

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

本学類では、小学校一種免許状と、中学校一種免許状あるいは特別支援学校教諭一種免許状の取得に必要な科目の履修が卒業要件となっていることから、次の三点が望まれます。

- ・小学校の全教科を含む、学校教育の全般についての基礎的な知識や技術を身につけておくこと
- ・大学で専門とする予定の分野に関する興味・関心を深めておくこと
- ・これまでの学校経験を省察するなどして、学校や教師のあり方について自分なりの考えを持っておくこと

【地域創造学類】

地域創造学類は、それぞれの地域が持つ自然的・文化的資源、伝統、人材、資金社会関係などを総合的に活用し、自治を活かした地域固有のスタイルで住民の福祉・文化・産業・環境を発展させ、質の高い個性ある地域生活を計画・設計・政策立案し、地域づくりのリーダーとして活動できる能力を持つ人材を育てることを教育理念・目標としています。

地域創造学類には福祉マネジメント、環境共生、地域プランニング、健康スポーツの4つのコースがあります。各コースへの配属は、推薦入試以外の学生については、2年進級時に本人の希望、適性、学業成績等を考慮のうえ決定します。

求める人材

- ・地域の歴史・文化・環境・経済・生活に積極的な関心を持っている人
- ・個性ある地域を創造していくことに強い意欲を持っている人
- ・地域との具体的な関わりの中で、福祉・環境・文化・健康スポーツを中心に学びたい人
- ・地域における豊かな暮らしの創出に取り組み、グローバルな共生社会の発展に寄与しようとする人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程では文系・理系科目両面の基本的科目である国語・数学・外国語から2科目を選択し、後期日程では小論文課題から理解力・論理的思考力・表現力等を重視します。

■推薦入試

福祉マネジメント・環境共生両コースでは、小論文課題から、各専門分野に関わる課題に対する理解力・論理的思考力・表現力等を評価し、面接により大学入学後の計画、授業を理解するための基礎知識、大学での経験を踏まえた将来の希望等をあわせた総合的な評価をします。

地域プランニングコースでは、基礎学力に加え、面接により大学入学後の計画、授業を理解するための基礎知識、大学での経験を踏まえた将来の希望等をあわせた総合的な評価をします。

健康スポーツコースでは、基礎学力に加え、スポーツ活動に関する調査書及び面接により、大学入学後の計画、授業を理解するための基礎知識、大学での経験を踏まえた将来の希望等をあわせた総合的な評価をします。

■帰国子女入試

小論文課題から、地域創造に関わる課題に対する理解力・論理的思考力・表現力等を評価し、成績証明書（調査書）及び面接により、大学入学後の計画、授業を理解するための基礎知識、大学での経験を踏まえた将来の希望等をあわせた総合的な評価をします。

■私費外国人留学生入試

小論文課題を論述することにより、基礎的知識・思考能力・論述能力等を総合的に評価します。面接では、多面的な質問をおこない、勉強意欲や地域創造学類への的確性を総合的に評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

地域創造学類では、福祉、環境、地域プランニング、健康スポーツの側面から、総合的に地域について学ぶことから、文系・理系科目両面にわたり、高等学校で学ぶ教科全般について理解しておくことが求められます。

地域創造学類は、地域の問題を調査・分析し、政策立案できる能力の修得を目指しています。その前提として、地域社会に対して強い関心を持ち、自ら主体的に情報を集め、自分なりの考えをまとめられるようにしておくことが望まれます。

【国際学類】

国際学類は、実践的な英語などの語学力を活用して、将来、外務・対外援助機関や国際機関で働きたい人、海外のNPO、NGOで経験を積みたい人、多国籍企業で力を試したい人、外国人に日本語・日本事情を教えたい人、国内での国際交流活動に携わりたい人などに必要な、多民族・多宗教・多文化共生社会を生き抜く強靱な知性と深い共感力、外国語をはじめとする国際コミュニケーション能力、具体的な問題提起と解決立案を行うセンスを養うことを教育目標とします。

国際学類には国際社会、日本・日本語教育、アジア、米英、ヨーロッパの5つのコースがあります。各コースへの所属は2年進級時に本人の希望、適性、学業成績等を考慮のうえ決定します。

求める人材

- ・多文化や多民族、及び国際社会における諸問題に積極的な興味を持つ人
- ・自国文化のアイデンティティを常に問い続ける、探究心あふれる人
- ・英語や国際的に重要な他の外国語の実践的な運用能力を高めるために、努力を惜しまない人
- ・探究心とコミュニケーション能力を用いて、外国人と諸問題を粘り強く話し合い、相互理解と交渉妥結に達しようとする人
- ・将来の人生設計において、外国地域への進出など国際的な活動や国内において国際的業務への従事を目指す人。外国人に対する日本語教師を目指す人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程では国語・英語の学力、後期日程では英語を含む小論文課題の読解力・分析力・思考力・表現力等を重視します。

■推薦入試

第1次選考では、外部試験（TOEFL-iBT, IELTS（アカデミック・モジュール）、GTEC-CBTのいずれか）のスコア及び調査書、推薦書、志願理由書の書類を総合的に審査します。第2次選考では面接を行います。面接では、論理的な思考や国際コミュニケーション能力、国際問題への関心などを中心に総合的に判定します。なお、調査書は面接の際の参考とします。

■帰国子女入試

第1次選考では、外部試験（TOEFL-iBT, IELTS（アカデミック・モジュール）、GTEC-CBTのいずれか）のスコア及び成績証明書（調査書）、推薦書、志願理由書の書類を総合的に審査します。第2次選考では面接を行います。面接では、論理的な思考や国際コミュニケーション能力、国際問題への関心などを中心に総合的に判定します。なお、調査書は面接の際の参考とします。

■私費外国人留学生入試

英語及び日本語の文章を読ませ、それに関する問いに日本語で答えさせます。これによって、英語の知識とともに、社会・文化についての知識や論理的思考力及び日本語能力を総合的に評価します。また、面接では、基礎

知識や日本語によるコミュニケーション能力、勉学意欲を十分に有しているかを重視します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

国際学類ではグローバル化する世界を多様な観点から理解し、異文化との〈しなやかな共生〉を実現することのできる国際人を送り出すことを目指しています。この目標の実現のために高校在学中に「英語」や「政治・経済」、「世界史」、「地理」などの学習に積極的に取り組み、これらの教科の知識を十分に獲得した数多くの学生が本学類を受験してくれることを期待します。また真の国際人として活躍するためには、自国の歴史・文化についての教養も不可欠です。そこで受験生のみなさんには、日本理解の基礎として「日本語」(国語)及び「日本史」の学習を強く推奨します。「日本語」での読み・書き・話すこと的能力は、大学で高度な知的訓練を受けるにあたり絶対必要な条件です。また国内外において外国の人々と、積極的にコミュニケーションする意欲をもつことが望まれます。入学後の研究テーマによっては、これらに加えて「倫理」など様々な教科を学ぶ必要があります。

《理工学域》

【数物科学類】

数学、物理学は長い歴史をもつ学問として、互いに大きな影響を与え合いながら発展してきました。今日ではまた、計算機シミュレーションという新しい研究手段の導入によって、これまで困難とされていた複雑な数理や自然現象の理解に大きな進展がもたらされています。それらは自然科学をはじめとする現代のあらゆる科学の基礎を支えていると言っても過言ではありません。数物科学類では、このように21世紀の科学として発展を遂げつつある新しい数学、物理学、計算科学を学ぶことを通じて、国際社会の発展に寄与できる人材を育成します。

1年次では学類共通で基礎的科目を学び、2年進級時に本人の希望にもとづき、数学、物理学、計算科学の3つのコースのいずれかを選択し、より専門的な内容の学習へと進みます。

求める人材

- ・数学や物理学に興味をもち、それに取り組む熱意と探究心をもっている人
- ・計算機シミュレーション及びそれをういた科学研究に興味のある人
- ・将来、数学、物理学、計算科学及びそれらの関連分野の研究や教育に携わりたい人
- ・基礎科学をじっくりと学び、それを国際社会の発展に活かしたいと考えている人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程では数物科学類にとっての基本的科目である数学・理科及び英語の学力、後期日程では数学・物理の学力を重視します。

■帰国子女入試

基礎学力に加え、数物科学類にとっての基本的科目である数学の学力を重視するとともに、面接により理解度、勉学意欲、基本的知識等を総合的に評価します。

■私費外国人留学生入試

基礎学力に加え、数物科学類にとっての基本的科目である数学・物理の学力及び日本語・英語の語学力を重視するとともに、面接により日本語能力、勉学意欲、資質を総合的に評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校等の課程において、5教科7科目(数学、理科、外国語、国語、地理歴史・公民)又はそれに相当する科目を学び、そこで学習したことを十分に身に付けておくことが必要です。

【物質化学類】

化学は自然界で起こる様々な現象の原子・分子レベルでの理解から、21世紀に必要とされる環境に適合した新しい機能性物質の創製、さらに日常生活を支える様々な化学製品の開発と製造過程に至るまでの幅広い領域を含んでいます。物質化学類では、化学を通じて人類が自然と共生しながら持続的に豊かに生きるための科学・科学技術・文化の発展と充実に貢献し、世界のグローバル化を積極的に担える人材の育成を目標としており、“独自に考える力”と“未知の分野に対する強い探究心とチャレンジ精神”の旺盛な人の入学を期待します。

物質化学類には化学と応用化学の2つのコースがあります。各コースへの所属は2年進級時に本人の希望、学業成績等を考慮のうえ決定します。

求める人材

- ・自然現象の観察と実験に強い興味を持ち、実験を通して創造的に自然に関わりたい人
- ・独自に考える力と自然に対する好奇心を持ち、発見の感動を味わいたい人
- ・研究を通して得た成果を世界に向けて発信し、社会や自然界へ応用することに意欲がある人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程では物質化学にとっての基本的科目である数学・化学及び英語の学力、後期日程では化学の知識・理解度を重視します。

■帰国子女入試

物質化学にとっての基本的科目である数学・化学及び英語の学力を重視するとともに、成績証明書(調査書)により基礎学力を評価します。

■私費外国人留学生入試

数学・化学及び英語の学力を重視するとともに、面接により、大学の授業を理解するための基礎知識、日本語によるコミュニケーション能力などを評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校で履修した科目(大学入試センター試験で課している科目)について十分に理解できていることが必要です。

さらに、化学を含む理系科目（理科、数学）は理学・工学の基礎となる科目ですので非常に重要です。文系科目（国語、外国語、社会系科目（地歴・公民））も自分の意見をまとめコミュニケーションを行うために必要です。また、高校生活の中で、日常的な科学現象に興味を持ち、それらを意欲的に探究する姿勢を身につけてください。

【機械工学類】

本学類では、自己を知り自己の人間力や表現力を高めた上で、技術革新の基盤となる機械工学の技術者・研究者として、モノづくり工学の社会的使命と責任を果たし、中核的なリーダーとして国際的に広く活躍する人材を育成します。そのために、技術の革新的な進歩に貢献する能力と、技術と人間社会との調和を図る素養の修得を目的とした、工学のみならず、数学・物理学の基礎から、機械工学の先端的な分野、技術をとりにくく社会・環境に関する分野までの研究・教育を行います。本学類は、機械の高度化、知能化、超精密化を目指す、ロボティクス、航空宇宙工学、ナノテクノロジーなどの未知の領域に挑む先進的な機械工学分野や、医療福祉機器、生活支援機器、新エネルギーの開発や環境保全を目指す、人と自然に優しい機械工学分野に興味がある人材の入学を期待します。

機械工学類には機械システム、知能機械、人間機械及びエネルギー環境の4つのコースがあります。各コースへの所属は2年進級時に本人の希望、学業成績等を考慮のうえ決定します。

求める人材

- ・先端機械工学への興味、モノづくりへの熱意、人間支援に対する高い志を持つ人
- ・地球環境への関心が高くグローバルな視野と外国語能力の向上に意欲を持つ人
- ・独創性と創造性が豊かで自ら問題点を解決する意欲を持つ人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程では、機械工学にとっての基礎となる数学・物理・英語の学力、後期日程では、数学・物理の学力を重視します。

■帰国子女入試

機械工学にとっての基礎となる数学・物理・英語の学力を重視するとともに、成績証明書（調査書）により基礎学力を評価します。

■私費外国人留学生入試

日本語の読解・筆記能力、機械工学にとっての基礎となる数学・物理・化学・英語の学力を重視するとともに、面接により、日本語能力、理工学分野の勉学意欲及び資質を評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

大学入試センター試験で課している科目（理系科目及び文系科目）および一般入試の個別学力検査で課している科目（数学・理科・英語）について、十分理解しておくことが必要です。また、身の回りの“モノづくり”の仕組みから日常的な科学現象まで、幅広い興味と探究心を持つこと

が望まれます。

【電子情報学類】

電子情報学類が対象とする分野は、大小様々な機器の動作に不可欠なエネルギー・制御・半導体・集積回路技術、情報産業のインフラであるコンピュータ・通信技術、バイオと情報通信技術（ICT）の融合した生命情報からなり、相互に強く関連しながら発展している分野です。電子情報学類では、地球的視点や技術者としての鋭い倫理観を持ちながら、当該分野における未来の課題に取り組む強い意欲と能力を有し、個性の輝く自立した電気・電子・情報・通信・生命情報工学技術者の養成を目標としています。

電子情報学類には電気電子、情報システム及び生命情報の3つのコースがあります。各コースへの所属は2年進級時に本人の希望、学業成績等を考慮のうえ決定します。

求める人材

- ・数学が得意な人、積極的に物理学、数学、生物学の応用に取組みたい人
- ・科学実験やコンピュータに関心があり、科学技術の未来の課題を見つけて創意工夫をしたい人
- ・コンピュータのハードウェア・ソフトウェアを学び、高度情報化社会に貢献したい人
- ・エネルギー、エレクトロニクス、通信、ICT技術を身につけて国内外の幅広い分野で活躍したい人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程では電子情報分野の基本的科目である数学・物理及び英語の学力、後期日程では数学の理解度・数学的思考方法及び表現力を重視します。

■帰国子女入試

電子情報分野の基本的科目である数学・物理及び英語の学力を重視します。

■私費外国人留学生入試

日本語の聴解・読解力に加え、電子情報分野の基本的科目である数学・物理・化学及び英語の学力を重視するとともに、面接により、日本語によるコミュニケーション能力、理工学分野の勉学意欲及び資質を評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

大学入試センター試験で課している科目においては、理数系科目及び文系科目ともに重要ですので、きちんと習得してください。また、一般入試の個別学力検査で課している科目（数学、物理、英語）については、入学後の本学類における授業及び研究の基礎として非常に大切ですので、しっかりと学び、身につけておいてください。

【環境デザイン学類】

私たちの生活には、地球環境から生活環境までの安全・安心な環境や豊かな暮らしを支える道路・橋梁・堤防などの社会基盤が不可欠です。環境デザイン学類では、地球環境だけでなく、生活環境や社会基盤の整備などを含めた広い意味で（私たちの暮らしのための）「環境」というものを捉え、「環境」について総合的・実践的に教育・研究を行います。

環境デザイン学類には土木建設、環境・防災及び都市デザインの3つのコースがあります。各コースへの所属は3年進級時に本人の希望、学業成績等を考慮のうえ決定します。

求める人材

求める人材は、地球環境から生活環境までの様々な自然・人間・社会環境に対する調査や分析と共に、それらに配慮した国土創造、安全・安心な社会基盤や都市のデザインに興味があり、かつ、次のような特性を有する、意欲ある人です。

- ・理数系科目はもとより、人文社会系科目にも興味のある、オールラウンドな実力のある人
- ・地域貢献や社会正義について大に関心のある人
- ・環境問題をはじめとする社会の動きにいつも関心のある人
- ・創意工夫をすることの好きな人
- ・自分の考えを相手にわかりやすく表現できる人
- ・現在と未来の課題解決に対して積極的に取り組む人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程では本学類にとって基本的科目である数学、理科及び英語の学力、後期日程での面接試問では表現力、勉学意欲、適性等を重視します。

■帰国子女入試

本学類にとって基本的科目である数学、理科及び英語の学力を評価します。

■私費外国人留学生入試

英語の学力に加えて、日本語の読解・筆記能力、基礎学力を重視するとともに、面接により、勉学意欲、日本語によるコミュニケーション能力等を評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校で履修した科目（大学入試センター試験で課している科目）について、しっかり理解しておくこと。本学類の科目を着実に習得するには、特に数学、物理、化学及び英語について十分な学習が望まれます。また、総合的な学力を身に付けるために、理系のみならず、人文社会系科目の学習も勧めます。

【自然システム学類】

自然システム学類では、金沢大学〈グローバル〉スタンダードに基づきグローバル社会をリードする人材育成のため、生物・人間・物質・地球で形成されるシステムを自然システムとして捉え、理学と工学の両面から柔軟に思考できる能力を身につける教育を行い、生物学、バイオ工学、物質工学、環境科学、地球科学の総合的観点から、このシステムの基本を迫る研究者、その成果を人々の豊かな生活の実現に応用できる技術者、これらの知識の普及や人材育成に貢献できる教育者を養成します。自然システム学類では、科学的探究心に富み、これらの分野の専門知識を生かして活躍したいと考えている学習意欲のある人の入学を期待します。

自然システム学類には生物学、バイオ工学、物質循環工学及び地球学の4つのコースがあります。各コースへの所属は2年進級時に本人の希望、学業成績等を考慮のうえ決定します。

求める人材

- ・自然現象に対して興味を持ち、理科系科目が得意で、実験や野外調査が好きな人
- ・生物学、バイオ工学、物質工学、環境科学、地球科学の分野で専門家や教育者の道に進みたい人
- ・理学と工学の基礎知識を備えて、グローバル社会をリードし、生命・バイオ・材料・環境分野で活躍したい人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、自然システム学類の基本的科目である数学、理科、外国語（特に英語）の学力を評価します。これらに加え、前期日程では国語や地歴・公民を含む幅広い能力、後期日程では勉学意欲及び科学や技術に対する理解力、論理的思考力、表現力等を重視します。

■推薦入試

小論文、面接の結果及び調査書、推薦書、志願理由書等提出された書類により総合して行います。小論文では、科学や技術に関する文章を読み解き、理解力、論理的思考力、表現力、英語力等を総合的に評価します。また、面接では、科学や技術に対する勉学意欲及び理解力等を評価します。

■帰国子女入試

基礎学力に加え、数学、理科、英語の学力を評価します。加えて、成績証明書（調査書）等提出された書類により総合して評価します。

■私費外国人留学生入試

数学、理科、英語の学力を評価します。日本語の読解・筆記能力も重視します。面接では、大学の授業を理解するための基礎知識や勉学意欲、日本語によるコミュニケーション能力などを評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校で履修した科目（大学入試センターで課している科目を含む）について、しっかりと身につけておくこと。自然システム学類の基本的科目である数学、理科、英語については、応用能力を含めとくにしっかりと身につけておくこと。また、自然科学全般に広く興味を持って勉強しておくこと。

《医薬保健学域》

【医学類】

医学類は、従来の医学部医学科に相当し、卒業者には医師国家試験の受験資格が与えられ、合格することによって医師として登録されます。医学類の教育理念は、「人間性を重視し、かつ高度で総合的な能力を有する医療人・医学者の育成を図ることにより、世界の医療、健康、福祉に貢献する」ことです。そのために、「幅広い教養、豊かな感性と人間性への深い洞察力を持ち、コミュニケーション能力及び国際性を備え、患者中心の全人的医療ができる医師と医学者」を育てることを教育目標とします。また、社会の多様かつ高度な医療ニーズに応えていくために「明確な目的意識、強い使命感、高い倫理観と協調性」を備えた人材を求めます。

求める人材

- ・高度専門職業人として、研究心を持った医師を目指す人
- ・地域の医療に貢献する医師を目指す人
- ・国際的に活躍できる医学研究者を目指す人
- ・厚生医官、法務医官、自治体、保健所など医療行政の分野で活躍したい人
- ・世界保健機構などで医学医療の分野で国際貢献したい人
- ・医薬開発、医療器械開発、バイオ技術開発などのビジネス領域で活躍したい人

選抜の基本方針

■一般入試

高等学校教育で求められるすべての科目における基礎知識・技能に加え、医学にとって基本的科目である数学・物理・化学・英語の学力、そして面接においては勉学意欲・コミュニケーション能力・資質・向上心等を重視します。

■推薦入試

生命科学と人類の幸福に高い志を持ち、出身高等学校長等による責任ある推薦を受けた者を対象とします。特に、推薦入試の特別枠は、将来、石川県並びに富山県の地域医療をリードする指導的人材の育成を目的としており、石川県又は富山県の地域医療に貢献する強い意志を持った者を対象とします。

■帰国子女入試

日本の高等学校教育で求められるすべての科目における基礎知識・技能と相当のものを習得していることに加え、医学にとって基本的科目である数学・物理・化学・英語に関して十分な学力をもったものを対象とします。面接においては勉学意欲・コミュニケーション能力・資質・向上心等を重視します。

■私費外国人留学生入試

医学を学ぶのに必要な日本語の読解・筆記能力を有しているとともに、医学にとって基本的科目である数学・物理・化学・英語に関して十分な学力をもったものを対象とします。面接においては勉学意欲・コミュニケーション能力・資質・向上心等を重視します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校等で学ぶ教科全般について基礎的な知識と理解力・思考力を身につけておくことが望まれます。

【薬学類】

薬学が人間の生命に関わる学問であることを踏まえ、豊かな人間性・高い倫理観、幅広い教養を身につけた主導的な薬剤師の養成を図ります。また、薬剤師資格を有した上で高度に専門的な教育者や研究者を目指し、卒業後、博士課程（4年制）に進学する人を歓迎します。

本学においては薬学類・創薬科学類を一括して学生募集を行い、共通する基礎・専門科目や早期体験等の初期学習を経た後、学生自らが自己の適性を判断しながら進路を決定する経過選択制を導入しています。

求める人材（薬学類共通）

- ・チーム医療の一員として薬を用いた医療に主導的に関わる薬剤師を目指す人
- ・生命薬学の領域において国内外で活躍する研究者を目指す人

求める人材（アドミッション・オフィス入試）

- ・化学を基礎として医療や生命科学に関連する領域を深く、主体的に学ぶことに意欲的な人

選抜の基本方針

■一般入試

高等学校での高いレベルの基礎学力と、特に理数科目での秀でた学力を身につけた人材を選抜します。

■帰国子女入試

授業を理解するための高い学力を個別試験により、素質・適性・学力を面接により評価します。

■アドミッション・オフィス入試

物事の本質を理解し、自ら問題を見出して知識・技能を総合的に活用・解決しようとする能力や適性、学習意欲及び目的意識等を総合的に判定します。

■私費外国人留学生入試

授業を理解するための高い学力を個別試験により、素質・適性・学力ならびに日本語能力を面接により評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校で履修する科目（大学入試センター試験で課している科目）について、しっかり理解することが求められます。特に、理数科目の高い基礎学力と理解力が必須です。

【創薬科学類】

人類の健康増進や医薬品の創製につながる先端的な研究・応用研究分野で活躍する高度で専門的な知識と技能を身につけた多様な人材の養成を図ります。とりわけ研究者を養成することを主目的としますので、卒業後は、大学院博士前期課程（2年間）、さらには博士後期課程（3年間）へと進学する人を歓迎します。

本学においては薬学類・創薬科学類を一括して学生募集を行い、共通する基礎・専門科目や早期体験等の初期学習を経た後、学生自らが自己の適性を判断しながら進路を決定する経過選択制を導入しています。

求める人材（創薬科学類共通）

- ・人類の健康増進や医薬品の創製を通じて社会に貢献することを希望する人
- ・生命科学の領域において国内外で活躍する研究者を目指す人

求める人材（アドミッション・オフィス入試）

- ・化学を基礎として医療や生命科学に関連する領域を深く、主体的に学ぶことに意欲的な人

選抜の基本方針

■一般入試

高等学校での高いレベルの基礎学力と、特に理数科目での秀でた学力を身につけた人材を選抜します。

■帰国子女入試

授業を理解するための高い学力を個別試験により、
素質・適性・学力を面接により評価します。

■アドミッション・オフィス入試

物事の本質を理解し、自ら問題を見出して知識・技能
を総合的に活用・解決しようとする能力や適性、学習意
欲及び目的意識等を総合的に判定します。

■私費外国人留学生入試

授業を理解するための高い学力を個別試験により、素
質・適性・学力ならびに日本語能力を面接により評価し
ます。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校で履修する科目（大学入試センター試験で課し
ている科目）について、しっかり理解することが求められ
ます。特に、理数科目の高い基礎学力と理解力が必須です。

【保健学類】

保健学類は、「保健・医療・福祉における科学的な知識・
理論・技術の修得と課題探究能力を養成し、豊かな教養と人
間性を備えた高度専門医療人と保健学研究者を育成し、国民
の医療・福祉の発展に寄与すること」を基本理念とします。
教育目標は、1) 現代社会の抱える諸問題を総合的に洞察で
きる能力の育成、2) 日本語・外国語による討議・発表能力
の育成、3) 保健学における基礎的知識と専門的知識・技術
の修得、4) 保健学の知識・技術を活用した課題探究能力の
育成、5) 豊かな人間性と高い専門職業人としての倫理観な
ど医療人としての社会的使命感の涵養、6) 学際的保健学知
識の統合による教育・研究能力の育成です。

保健学類では、国家試験受験資格の取得のためのカリキュ
ラム編成がおこなわれており、このため募集単位は看護学専
攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専
攻、作業療法学専攻の5専攻を設けます。

【看護学専攻】

看護科学は、人間の誕生から死までを包括的に捉え、環境
に適応しながら健康に生活することを支援する学問です。看
護学専攻では、健康に関わる知識と技術を体系的に学習しま
す。さらに、学内及び学外の医療、保健関係現場での実習を
通じて、高い倫理観、専門職としての使命感、医療チームの
一員としての責任を学びます。また、研究やゼミを通し、将
来の医療科学を担う者として幅広い科学的知識、問題解決方
法などを学び、将来の進歩や変化に対応するための能力を養
うと同時に、実践力のある指導者、教育者、研究者となるた
めの基礎も身につけます。卒業時には、看護師、*保健師の
国家試験受験資格を取得することができます。

*保健師課程については、平成26年度入学生から選択制としています。
詳細は随時保健学類HPなどに掲載していきますので、保健師を希望
している方は確認してください。

【放射線技術科学専攻】

診療放射線技師として保健医療を支える有能で意欲のある
人材を育成することを目標とします。放射線技術科学専攻で
は、放射線、磁気や超音波を使用した医療機器の原理や特
性、情報処理技術、各種の医療画像形成法、人体の形態、機

能並びに医薬品に対する生物学的な特性など広範囲の学問を
修め、高度な医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養
います。また、放射線を含む量子医療技術について基礎から
臨床まで幅広い教育研究を行います。卒業時には、診療放射
線技師の国家試験受験資格を取得することができます。

【検査技術科学専攻】

検査技術科学は、主に病気の診断や治療効果判定に対して
重要な情報を提供する臨床検査を学習する学問です。本専攻
では臨床検査に関わる知識と専門技術を体系的に獲得し、医
療現場での実習を通じて医療チームの一員である専門技術者
としての役割を学びます。また、研究室配属を通じて、進歩
する医療科学を担う深い科学的考察や革新的技術などを取得
する能力を養います。卒業時には臨床検査技師の国家試験受
験資格を取得することができます。

【理学療法学専攻】

理学療法学は、リハビリテーション医療の一専門分野です。
種々の疾患や事故などにより、神経、筋、骨格、循環器、呼
吸器などに損傷や障がいをきたした人に対して、運動療法や
物理療法を駆使して治療に当たります。理学療法学専攻では、
理学療法士となるために必要な治療技術を科学的、実践的に
修得するとともに、医療人としてあるべき人間性を育成しま
す。卒業時には、理学療法士の国家試験受験資格を取得する
ことができます。

【作業療法学専攻】

作業療法士として必要な知識、技術、コミュニケーション
能力を修得し、専門職としての能力を高め、研究する態度を
もつ人材を養成します。本学の作業療法教育は脳機能解析学
や運動器障がいをはじめ、生活能力回復学の領域において幅
広い分野の専門教員の下に行われています。作業療法の技術
科学を修得し、研究を進め、技術を開発し、社会に役立つた
い人の入学を希望します。卒業時には、作業療法士の国家試
験受験資格を取得することができます。

求める人材

【看護学専攻】

- ・看護の専門技術や知識を高めて、社会に貢献する意欲
を持つ人
- ・病める人に対する医療のために、情熱を燃やすことの
できる人
- ・人間の健康、医療問題に対して国際的視野で貢献した
いと強く願う人
- ・保健の分野で、新しい技術や知識を創り出す熱意を持
つ人
- ・看護学及び看護の進歩のために、将来のリーダーとな
る夢を持つ人

【放射線技術科学専攻】

- ・診療放射線技師として保健医療を支えることができる
有能な人
- ・高度先進医療に対応し常に努力することができる人
- ・専門的な知識を習得するのみならず研究・思考するこ
とができる人
- ・患者の立場に立って行動・発言できる豊かな人間性を
持つ人

【検査技術科学専攻】

- ・病める人に対する医療のために、知識や専門技術を高め、社会に貢献する情熱を持つ人
- ・医療科学の分野で新しい技術や知識を創り出す熱意を持つ人
- ・臨床検査技術の進歩に貢献し、将来のリーダーとなる夢を持つ人

【理学療法学専攻】

- ・豊かな人間性と愛情を持ち、学習意欲の高い人
- ・社会のニーズに応え、努力を惜しまない人
- ・理学療法学の今後を担い、人類社会に貢献できる人

【作業療法学専攻】

- ・たゆまず努力して、自分の能力を高めようとする人
- ・専門技術や知識を高めて、社会に貢献する意欲を持つ人
- ・病める人に対する医療のために、情熱を燃やすことのできる人
- ・人間の新たな能力を引出し活用する作業療法を修得し発展させた人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程（全専攻）では理科と英語の学力、後期日程（3専攻）では面接試問での理解力・表現力・勉学意欲・資質適性等を重視します。

■推薦入試

面接で医療人としての適格性の評価および調査書による総合評価をします。また、看護学専攻、作業療法学専攻では小論文による資質評価をし、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻では基礎学力を重視します。

■帰国子女入試

理科と英語の学力に加え、成績証明書（調査書）による総合評価をします。

■私費外国人留学生入試

小論文、面接による資質適格性を評価し、英語、日本語能力を加えて総合判断します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

【看護学専攻】

論理的思考力・表現力を身につけるため、文系科目と理系科目の幅広い基礎学力の習得を望みます。

【放射線技術科学専攻】

文章を正確に読解し、事象に応じて的確に記述する国語・英語力の習得を望みます。また科学的な視点で事象を読解するための基礎的な知識が必要であり、理科・数学を学んでおくことも望まれます。

【検査技術科学専攻】

種々の臨床検査技術における基礎となる理論や科学的考察には、数学、物理、化学及び生物学の考え方や知識が必要で、高等学校においてこれらの教科の履修が望まれます。また、情報収集及び発信に必要な英語の力が求められます。

【理学療法学専攻】

高等学校までに学ぶ国語、社会、数学、理科、英語について十分な基礎学力を身につけておくことが重要です。

【作業療法学専攻】

理系科目と文系科目の均衡がとれた幅広い基礎学力の習得を望みます。

国際バカロレア入試のアドミッション・ポリシー

金沢大学では、「専門知識と課題探求能力、そして国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材の育成」を大学憲章において教育目標に掲げ、さらに金沢大学<グローバル>スタンダード（KUGS）では、科学的な世界観と歴史観、論理的展開力、己を磨く人間力、創造力、そして日本文化・異文化に対する深い理解力を備え、知的基盤社会の中核的リーダーとなって挑戦し続ける人材の育成に努めることを謳っています。金沢大学は、本学の教育を受けるのに必要な資質と基礎学力を有し、豊かな教養と高度な専門性を身に付けたいという強い意欲を持つ人を国内外から広く受け入れます。

特に国際バカロレア入試においては、自主的に課題を発見し解決する意欲があり、国際交流に必要な表現力とコミュニケーション能力（英語）を習得して世界に向けて活躍する熱意を持ち、かつ入学を希望する学類のアドミッション・ポリシーに適した人を受け入れます。